



出向者報告

～環境省への出向を通じて得た知見について～

愛媛銀行 経営管理部
調査役 日野 大輔

私は環境経済課・環境金融推進室に在籍し、金融機関の支援を通じて地域の持続的な経済成長と脱炭素化の両立を目的に、ESG金融の普及促進や補助制度の企画・運営、政策資料の作成等に従事しました。この部署では、銀行、信用金庫、生損保、証券会社など金融機関からの出向者を受け入れ、実務知見と多様な業態の視点を政策に取り込んでいます。その一員として、政策の考え方から制度運営の実務に至るまで関与できたことは、貴重な経験となりました。

業務では主に「持続可能な社会形成に向けたESG地域金融の普及・促進事業」に携わりました。本事業は、金融機関が主体的な役割を果たし、各地域の資源を活用して地域課題の解決を図るモデル事業を創出するものです。一方で、地域課題の特定や具体的な取組方法に悩む金融機関も多く、スタートラインに立つための支援を行う一面もありました。そのため、地域ごとの産業構造や課題を踏まえた伴走支援や意見交換を通じて課題解決の方法を模索していきました。これらの経験を通じて、金融機関の役割は一律ではなく、地域特性に応じた関与が求められる点が印象に残りました。

さらに、脱炭素機器の普及を目的とした「カーボンニュートラル社会構築に向けたESGリース促進事業」にも携わりました。省エネ機器や高効率機械の導入は、コスト削減や生産性向上、補助金活用によりリース料低減につながることから、中小企業や医療機関などにおいても高いニーズがありました。また、近年は大企業だけでなく、取引先を含めたサプライチェーン全体での脱炭素化が求められており、中小企業の取組がこれまで以上に重要となっています。本業務を通じて、脱炭素化への取組は環境対策にとどまらず、コスト削減や競争力の向上、取引先から選ばれる企業づくりにもつながることを実感しました。

これらの経験で得た知見を活かし、今後は当行のサステナビリティ戦略を推進し、地域企業の環境対応を事業機会へと転換する視点を提供していきたいと考えています。具体的には、脱炭素化や環境対応を経営課題として捉える企業に対し、金融面での支援だけでなく、事業価値向上につながる提案を行うことで、地域経済の持続的な発展に貢献していきます。金融機関としての役割を最大限に活かし、地域企業とともに未来を創る伴走者でありたいと思います。